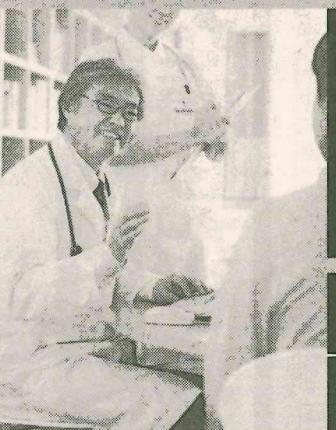


これがあれば、もう迷わない

「わからないけど、何か不安」
—その直感は大事にしたい

主治医を信じてるけれど、 別の医者の「別の意見」 も聞いてみる

医者
天国と地
獄の実力と
知見



も聞いてみる



- 「セカンドオピニオン を取りたい」と言つたら、どんな顔をされるのか
- カルテ、画像提供を断 わられたら、この「言葉」を言おう
- 「やっぱり先生の方針 でお願いします」はありか? なしか?

聞いてみたい
でも嫌われたくない

「ほかのお医者さんの意見も聞いてみたい」—病気で医者にかかったとき、そう思ったことはないだろうか。主治医のことは信じているし、その診断や治療方針に確たる疑問があるわけでもない。でも別の医師なら何と言うのだろう。手術を受けるか否かという一大決断でなくとも、「その診断・治療法でいいのか」「薬をこのまま飲み続けていいのか」など、医者を目の前にすると聞きにくいくこともある。

そんな正直な、そして不安がよぎる「直感」をどう解消すればいいのだろうか。

都内在住の長谷川真人氏
(仮名、72)が振り返る。

『3年ほど前に主治医から『高血圧が気になるので、これからは降圧剤を飲み始めましょう』と言われました。付き合いが長い先生だし、これまで頼りにしてきましたが、本当に自分に必要なのか」と不安になってしまって。相談をしようかと思ったのですが、なかなか言い出せないまま、服用を始めることになりました』

長谷川氏のように、病院での診断に疑問を抱く場面は誰にでもある。しかし、医者の理論的な説明を前に何となくの不安は言い出しがち。しかも、人柄をよく知る主治医であればな

